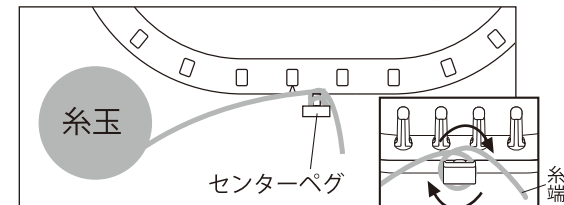
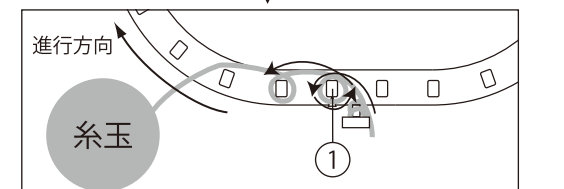


作り目

糸はあまり強く張りすぎないように巻きます

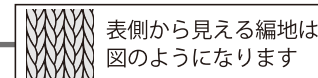


糸端を15cmほど取り、センターペグに時計回りに3~4回糸端を巻き付けます。(※結びません)



①~②④のピンまで糸を反時計回りに1回ずつ巻き付けて、1周します(作り目24目)

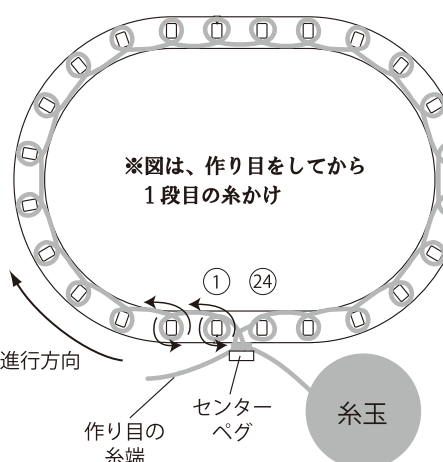
ビッグサイズの表編み



厚地の重ねばき用ホームソックスやレッグウォーマーに。

太い糸(並太糸2本取り程度)を使用する編み方です。編目はねじり目(上図)になります。表編みの際、ピンに糸を巻き付けて編むので、通常の**表編み**の約1.5倍の編目ができます。

糸はあまり強く張りすぎないように巻きます



★1段全てが表編みの場合

1. 作り目をしたら、作り目と同様に①のピンから糸を反時計回りで1回ずつピンに巻き、②④のピンまで1周します。(ピンには2本糸が巻き付いています)
2. センターペグに巻いてある作り目の糸端をほどき、後で巻いた方の糸を、センターペグに反時計回りに3回程度巻き付け、ピンの糸がほどけないようにとめます。
- 3.~5. 編み方は、下図<編み方>を参照してください。
6. 1段編んだら、ピンにかけている糸をピンの根元に引き下げてから、作り目と同様に1周糸を巻き付けて編んでいきます。

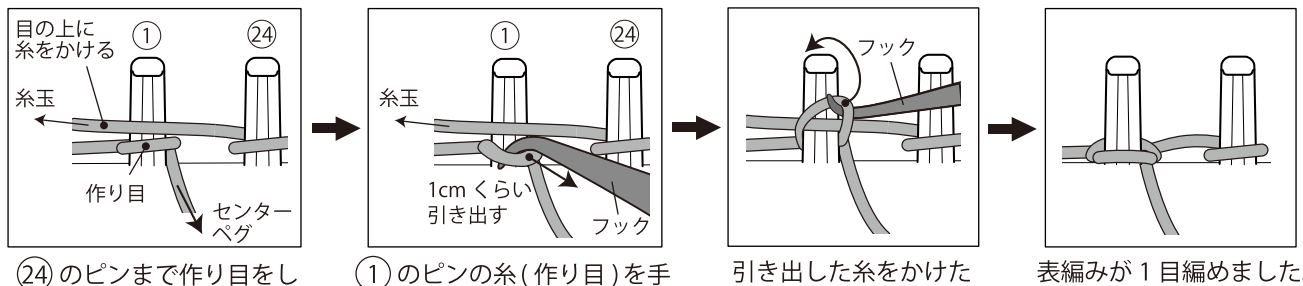
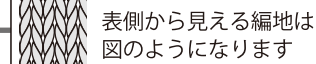
☆ソックスのかかとやつま先などを編む場合

1回ずつ、ピンに糸を巻き付けて編んでください。(巻き付ける方向は、進行方向により異なります)

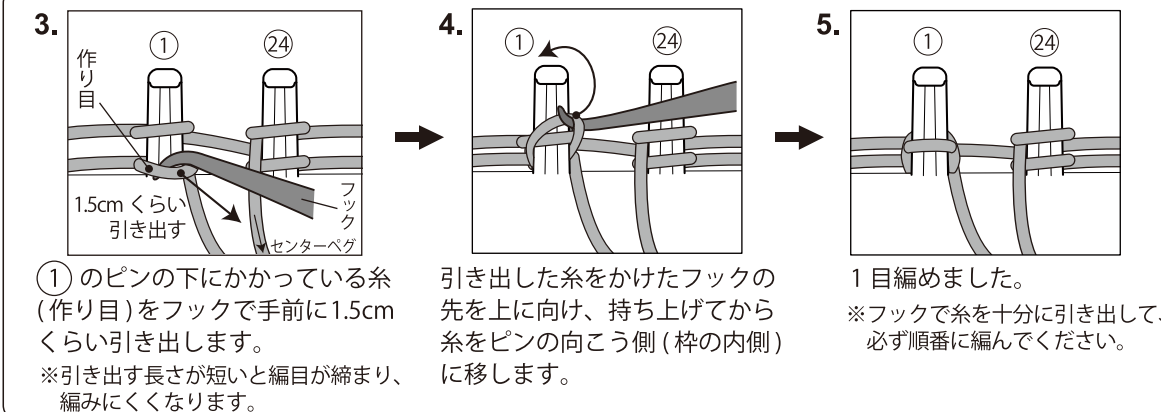
☆ゴム編みをする場合

表編みは、1回ずつ、ピンに糸を巻き付けて編んでください。(裏編みは、通常の**裏編み**をしてください)

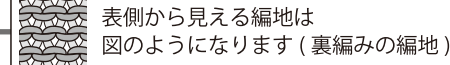
表編み



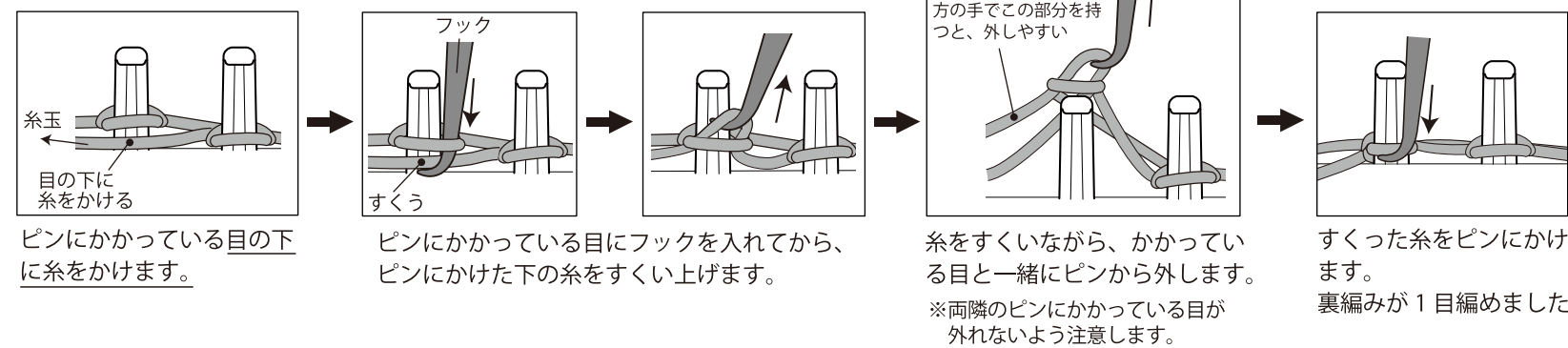
<編み方>



裏編み



※下図は、表編みをしたピンの次のピンに裏編みを編む場合



1つの糸玉から2本取り

糸玉の中心部と側面から糸端を取り、ストロー(付属)を3cm程度にカットして糸を通して2本取りします。



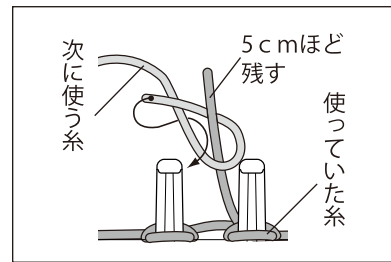
2本揃えた糸とストローを上図のように持って使用します。

☆2種の糸の引き揃えも同様にします。

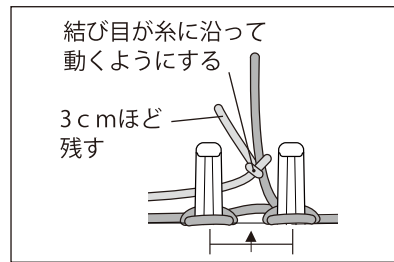
糸の替え方

糸を替えたい時や、糸を継ぐ時に。

☆ボーダー柄の場合は ⑳と㉑のピンの間(センターペグ上部)で替えます。



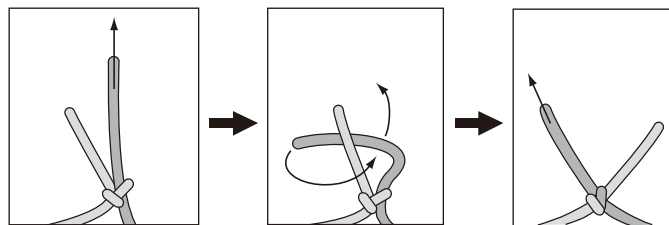
使っていた糸は5cmほど残します。次に使う糸を巻き付けて結びます。



結び目が糸に沿って動くようにする。3cmほど残す。結び目がピンとピンの中間にくるようにしてから編み始めます。

糸を替えた部分の結び目の始末

糸を替えた時や、糸を継いだ時の結び目は、裏側から始末します。

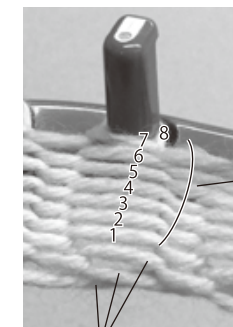


長い糸を引き、短い糸も締めて、編目がゆるまないようしてから長い糸を短い糸に結びつけます。(※糸を引きすぎると編地が引きつります。)糸端は切らずに、裏に渡っている糸に通してとじ針で始末します。

段の数え方

枠の内側から表編みの段数を数える方法です。

※裏側を見ているので、ニットの裏編みの編地と同じ見え方です。



表編みの段数は
真横に渡っている糸の数
+
ピンの糸(1)

この画像の場合、
真横に渡っている糸 7
+
ピンの糸 1
→ 8段になります

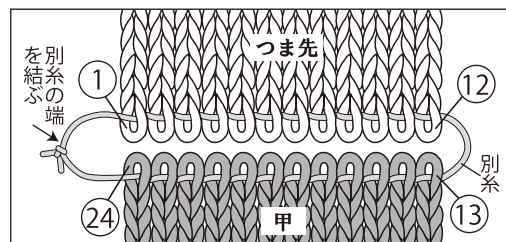
作り目：編地の一番下から3本の糸は段に数えませんが、一番下から2本の糸はクロスしています。

メリヤスはぎ

ソックスのつま先と甲をはぎ合わせる時に。

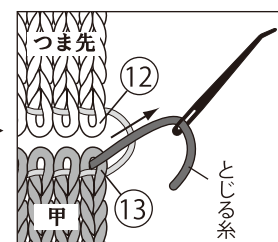
編地となじみ、とじた跡が目立たず自然に仕上がります。

※実際は①と㉑のピンにかかっていた編地と、⑫と⑬のピンにかかっていた編地はそれぞれつながっています。また、つま先は減らし目や増やし目をしていますが、図では省略しています。

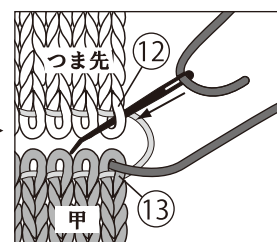


別糸を編目に通して整えます。別糸の端を結びます。

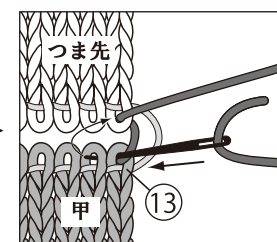
とじ針に甲と同じ糸を50cm通します。(※ビッグサイズの表編みの場合は65cm)



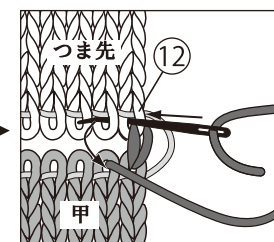
⑬のピンにかかっていた目から針を出します。とじる糸の端は編地の裏に5cmほど残します。



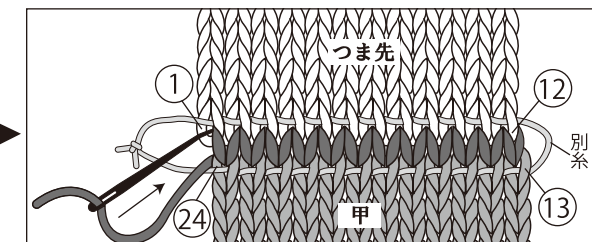
⑫のピンにかかっていた目から針を出します。



⑬のピンにかかっていた目に針を入れ、隣の目から針を出します。



⑫のピンにかかっていた目に針を入れ、隣の目から針を出します。同様にしてはぎ合わせます。



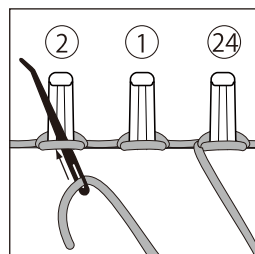
最後は、①のピンにかかっていた目に針を入れ、裏に糸を出して終わります。(編地は半目ずれた状態になります。)はぎ合わせができたのを確認してから、別糸を取ります。裏に出した糸は、目立たないところに通して糸始末します。

巻き止め

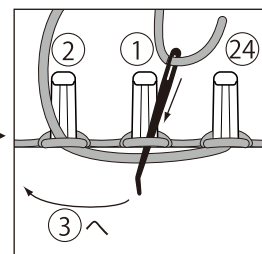
ハンドウォーマーなどの端をとじる時に。ルームにかけたままとじる方法です。

※とじた後にルームから編地を外すと、とじ目が編目よりも大きい状態になります。

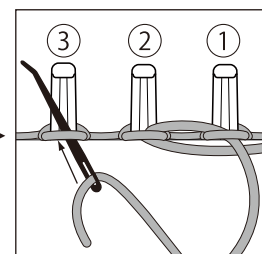
編地の編目と大きさを揃えたい場合は、とじ目の糸を少しずつ引き絞って大きさを整えます。(「端の引き締め方」参照)



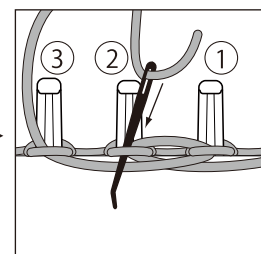
②のピンにかかっている目に下から上へ針を通します。



①のピンにかかっている目に上から下へ針を通します。

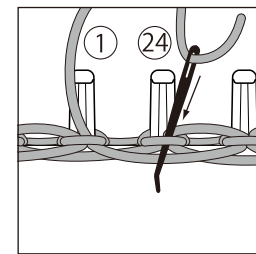


③のピンにかかっている目に下から上へ針を通します。



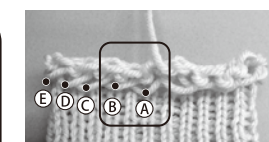
②のピンにかかっている目に上から下へ針を通します。針を2回通した目はフックで外せます。(この図の場合②のピンの目が外せます) ☆①のピンの目は外さないでください。(最後に外します)

同様に繰り返します。

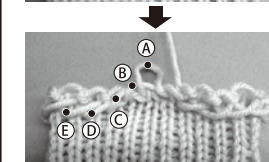


最後は⑳のピンに針を上から下へ通して終わります。ルームから編地を外します。

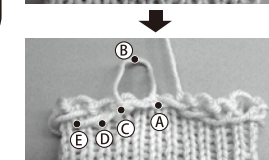
端の引き締め方



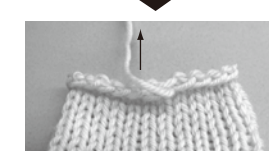
① 糸端の出ている鎖状のループの周辺を図のように整えます。



② 糸端の左隣の鎖状ループ外側の糸①を引きます。(糸を引き過ぎないように気をつけてください)



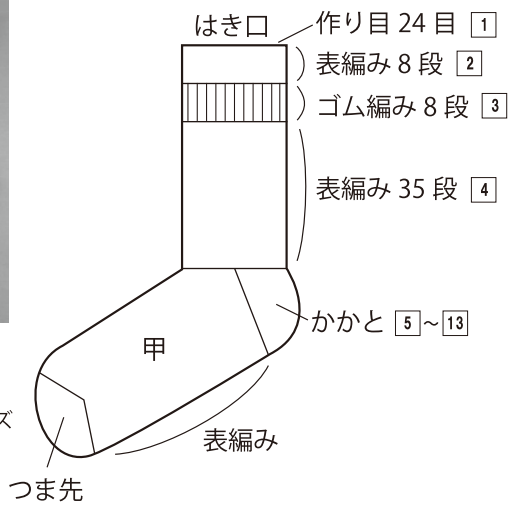
③ 次にその左隣の鎖状ループ外側の糸②を引くと①のループが引き締まります。(②が引きにくい場合は、先に①と②の間の糸を引いてから②を引きます) 引き締め過ぎないように気をつけながら、順番に糸を引いて右隣のループを引き締めていきます。



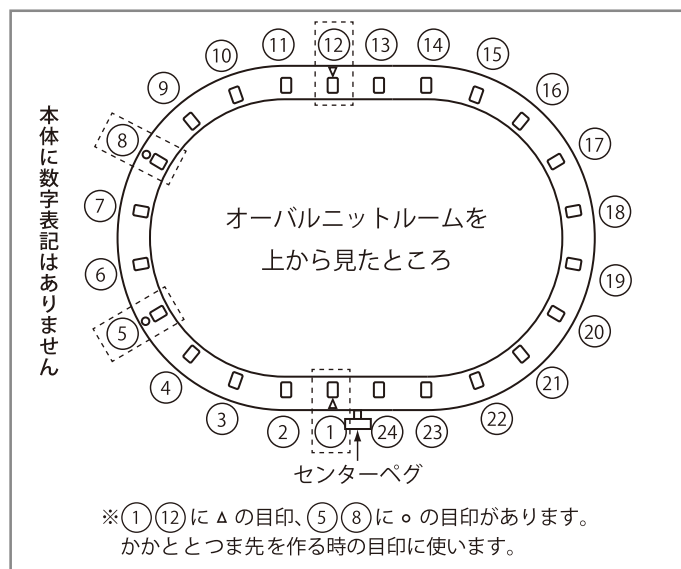
④ 最後は糸端を引きます。全体の引き締め加減を見て、引き締め不足の場合はさらにループを最初から少しずつ引き締めていきます。



画像の作品重量
 片足分 36g ※
 ※使用する毛糸やサイズ
 により異なります



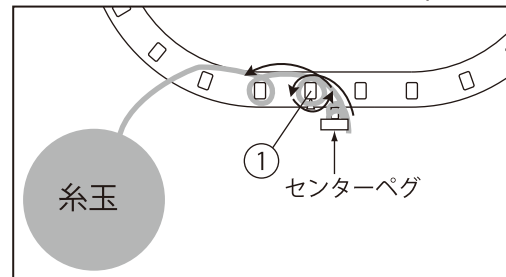
- ・準備するもの…並太毛糸、はさみ、定規 (30cm が便利)
- ・あれば便利なもの…段数リングか段数マーカー、編みだし糸



編む時はスタンドを立ててください。

作り目 くるくるとピンに糸を巻き付けるだけ

- 最初に作り目を 24 目作りします。
 (※別紙 基本の編み方「作り目」参照)

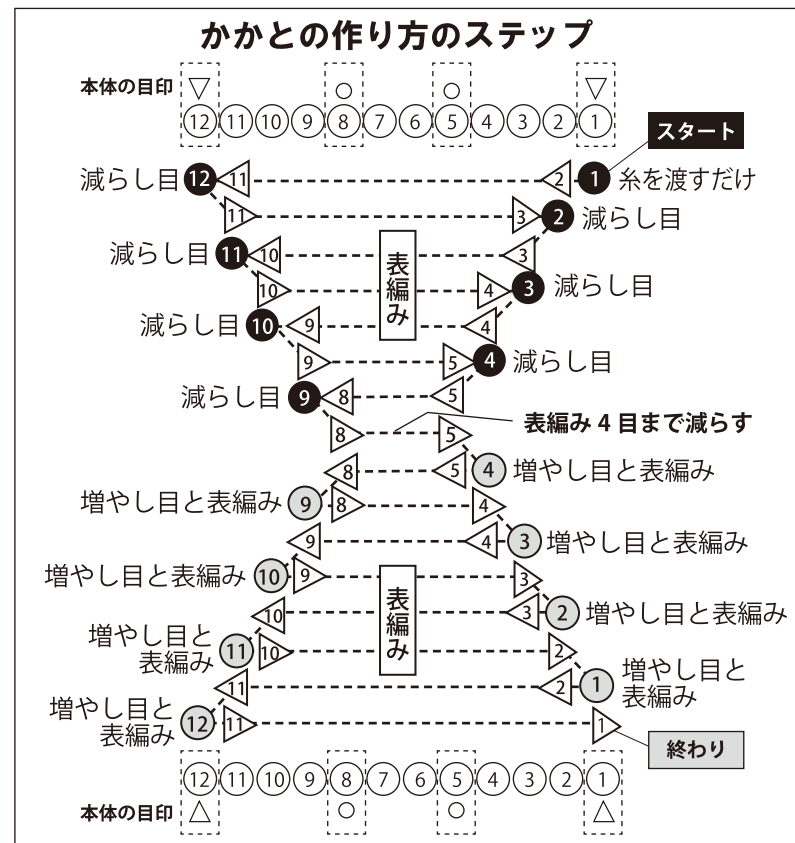


はき口～足首 はき口の部分はくるんと丸まり、あまり締めつけない編みあがりです

- ソックスのはき口の部分から編み始めます。
 ①～②④のピンまで表編みをします。(表編み 24 目 1 段め)
 (※別紙 基本の編み方「表編み」参照)
 同様にして全部で表編みを 8 段編みます。
 センターペグに巻いた糸は、ほどいて枠の内側に入れます。
 ☆糸の色を替えたい時は、別紙の「糸の替え方」をご覧ください
- 次に 1 目ゴム編みをします。
 ①のピンは表編みをします。②のピンは裏編みをします。
 このように表編み、裏編みを 1 目ずつ交互に繰り返します。
 (※別紙 基本の編み方「表編み」「裏編み」参照)
 1 目ゴム編みを全部で 8 段編みます。
- 次に表編みを 35 段編みます。

かかと 最初に12目のうち両端1目ずつ減らして4目まで減らしてから、次に増やし目をして戻していきます

- ①～⑫のピンを使います。
 かかとは伸びが大きい部分のため、編地が透けるので、並太糸の場合、2本取りにして透けないように厚めにします。
 ★足首と同じ糸で編み続ける場合
 もう1本同じ糸を足して、2本取りにします。
 ★糸を替える場合
 (※別紙 基本の編み方「1つの糸玉から2本取り」・「糸の替え方」参照)
 ☆太い糸を使用するなど、編地を伸ばして透けにくい場合は、1本取りにします。



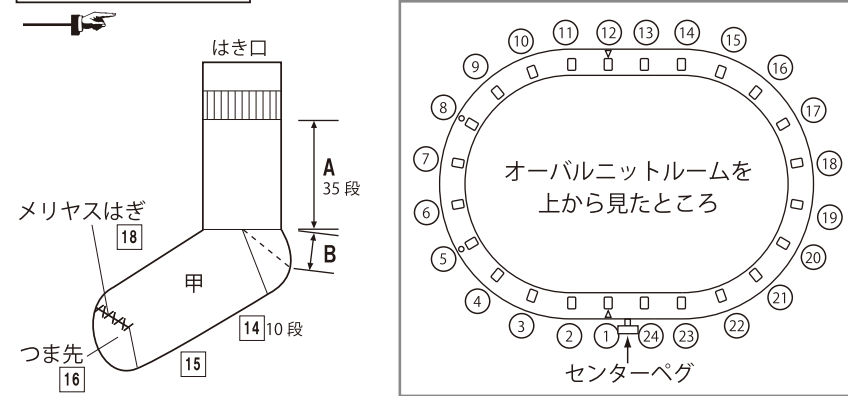
- 減らし目をします。
 ①から⑫のピンの間で、両側1目ずつ減らし目をします。
 ☆ソックスのかかととつま先を作る範囲の目印として、①と⑫のピンのところに△の目印が入っています。
 ①のピンは前に糸をゆるく渡すだけにして編まずに、②のピンから⑪のピンまで表編みます。
 <図は1本取りで表示>
- ⑫のピンは編まずに後ろから前に糸を回して、⑪のピンの前に糸をかけます。進行方向を変えて逆向き(反時計回り)に進みます。
 ⑪から③のピンまで表編みます。
 <図は1本取りで表示>
- ②のピンは編まずに後ろから前に糸を回して、③のピンの前に糸をかけます。進行方向を変えて③から⑩のピンまで表編みます。
 <図は1本取りで表示>
- ⑪のピンは編まずに後ろから前に糸を回して、⑩のピンの前に糸をかけます。
 (⑦と同様にします)
 進行方向を変えて⑩から④のピンまで表編みます。
- このように順に両側1目ずつ減らし目をしていき、⑨のピンを減らし目して⑧から⑤のピンまで表編みしたら、減らし目を終わります。
 ☆減らし目終了の目印として、⑤と⑧のピンのところに○の目印が入っています。
- 増やし目をします。
 ④のピンの前から後ろに糸をしっかり強く巻き付け、ピンにかかっている糸2本を一緒にフックに取って表編みます。(2目一度) <図は1本取りで表示>
- ⑨のピンの前から後ろに糸をしっかり強く巻き付け、ピンにかかっている糸2本を一緒にフックに取って表編みます。(2目一度)
 進行方向を変えます。⑨のピンに時計回りに糸をかけて表編みをします。
 次に、⑤から⑧のピンまで表編みます。
 <図は1本取りで表示>
- このようにして両側に2目一度、表編みを1回して目を増やします。
 ①から⑫のピンまで編み、⑫のピンで2目一度、表編みを1回したら逆方向に表編みし、①のピンまで戻り、増やし目を終わります。

裏面に続きます

⑨ 本製品や使用説明書を無断で複製し配布することを禁じます。

並太毛糸 (1本取り) のソックスの作り方

表面からの続き

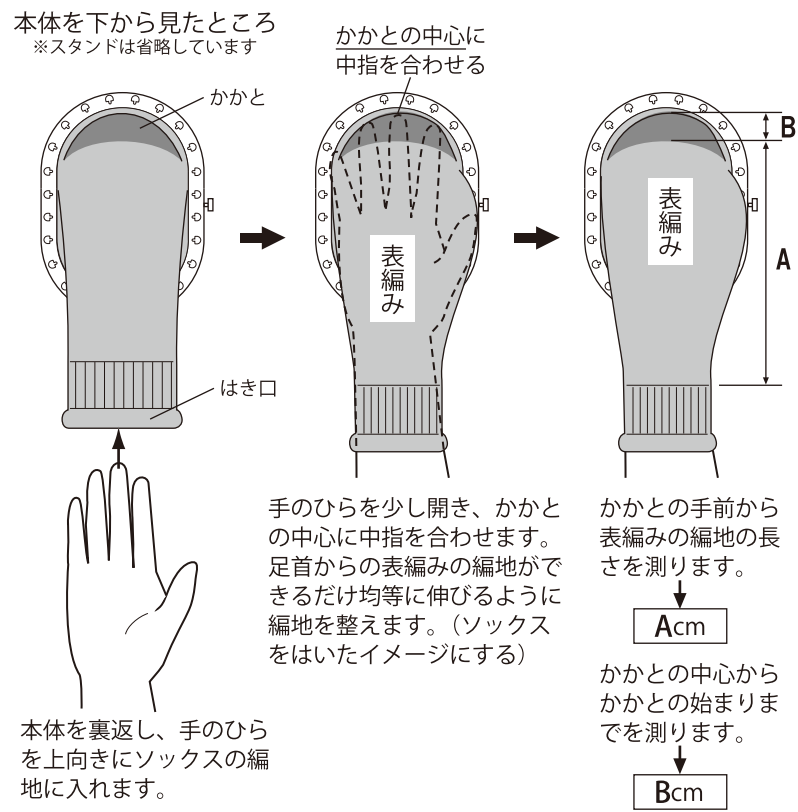


甲 サイズは甲の部分の長さで調節します。使用する糸によって伸縮状態が変わりますので測って編む段数の目安をつけま

14 ここからは表編み(並太糸は1本取りにする)で①から②4まで10段編みます。

編地は縦横に伸縮しますが使用する糸により状態が異なります。枠付近では編地が伸びきった状態なので少し編んで編地が安定した箇所です。

サイズに応じた甲の段数の目安の付け方



足のサイズに応じた【足のサイズ - (Bcm × 2)】
甲の段数 【Acm ÷ 35 段】

…Bcm × 2 は かかと + つま先の長さ

☆例：A が 14.0cm、B が 3.5cm で 23.5cm サイズ 甲の段数 = $\frac{23.5 - (3.5 \times 2)}{14 \div 35} = 41.25$ (段) を作りたい場合 切り上げて 42 段編みます

15 サイズに応じた甲の段数を出したら、すでに編んだ10段を差し引いた段数を表編みます。

☆編地が伸びて幅が広くなると長さが短くなるので、足幅の大きい方は少し段を多めに作るといいでしょう。

つま先 「かかと」と同じ編み方をします

16 つま先を編みます。つま先はかかとの編み方と同じです。並太糸の場合、2本取りにします。

【表面の説明 6 から 13 までと同様にします】

編み終わりは、糸端を6cmほど残してカットします。

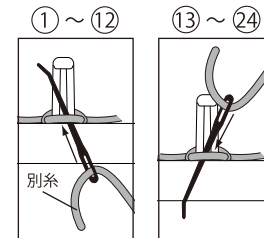
はぎ合わせ 別糸を通してルームから外し、つま先と甲をはぎ合わせます

17 まず編地を別糸に取ります。

別糸は区別がつきやすいよう、編地と別のあまり毛羽だちがないすべりの良い糸(太め)、または「クロバー編みだし糸 <太または特太>(別売)」がオススメ。

別糸を70cmカットしてとじ針に通します。ピンにかかっている糸に、次の手順で通します。

- ①から⑫のピンまではピンの下から上に向けて通します。
- ⑬から⑳のピンまではピンの上から下に向けて通します。



別糸を通し終わったら、フックを使い、ピンから編地を外します。

別糸の両端は1回結んでおきます。

(※別紙の「メリヤスはぎ」参照)

18 つま先と甲の部分が向かい合うように置きます。甲の部分を編んだ糸と同じ糸を50cmカットして、とじ針に通します。

⑬のピンにかかっていた目の下側から針を通し、糸端を5cm残して、目に針を通していきます。

(※別紙の「メリヤスはぎ」参照)

このようにして最後まではぎ合わせたら①のピンにかかっていた目に針を通して終わります。

はぎ合わせができていないか確認してから、別糸を抜き取ってください。

糸始末 余分な糸や裏の糸をとじ針で始末します。伸縮するので、3~5cm程度糸を残して始末します

19 糸始末をします。

表に出ている余分な糸は… とじ針を通して目立たないように裏に通します。

糸を替えた部分の結び目の始末は…

ソックスを裏返します。糸を引き締めて、編目がゆるまないようにしてから長い糸を短い糸に結びつけます。糸を引き過ぎると編地が引きつるので、表も見ながら注意して調整してください。(※別紙の「糸を替えた部分の結び目の始末」参照)

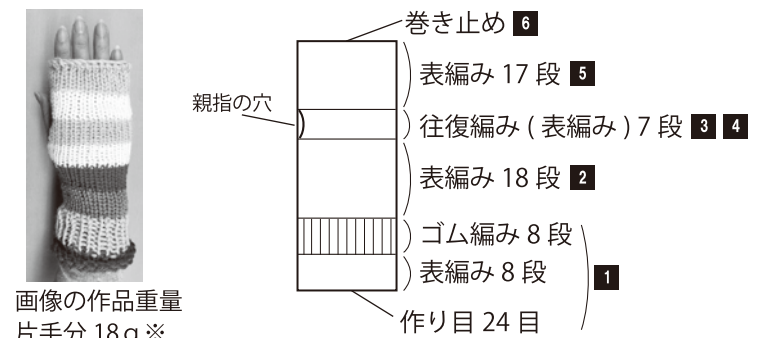
裏に回した糸や結んだ後の糸は…

とじ針を通して表に影響しないように内側に渡った糸を通して始末します。糸が短い場合はあらかじめ、通したい部分に針を通してから針穴に糸を通してとじます。

できあがり!

オーバーニットルームで作る

並太毛糸 (1本取り) のハンドウォーマーの作り方



画像の作品重量
片手分 18g ※

※使用する毛糸により異なります

- ・準備するもの…並太毛糸、はさみ
- ・あれば便利なもの…段数リングか段数マーカー

左右の区別がない形なので2個作ります

手首~手のひら

1 表面のソックスの作り方 1 から 3 までと同様にします。

2 表編みを18段します。

親指の穴を作る 1段ずつ方向を変えながら編みます。センターベグを目印にするといいでしょう

3 表編み1段を⑳のピンまで編んだら、⑳のピンに反時計回りに糸をかけて表編みをします。逆方向(反時計回り)に進んで㉓~㉑のピンまで表編みます。

4 ①のピンに時計回りに糸をかけて表編みます。進行方向を変えて時計回りに進み、②~㉔のピンまで表編みます。このように折り返して往復しながら編み進み、全部で7段編みます。折り返した部分が親指が入る穴になります。

指をおおう部分

5 ①のピンに時計回りに糸をかけて表編みます。この後はそのまま表編みを続けて、全部で17段編みます。

端を巻き止め

6 ㉔のピンから出ている糸端を枠の3周分の長さにカットしてとじ針に通します。巻き止めをして、フックで編地をルームから外します。(※別紙の「巻き止め」参照)

端の始末

7 ルームにかけたまま端を巻き止めると、巻き止め部分の目が編目よりも大きく仕上がるので、最初に巻き止めた部分の糸を少しずつ引き絞って、目の大きさを小さくしていきます。引き絞りが過ぎないよう気をつけて使いやすい大きさに調整しましょう。(※別紙の「端の引き締め方」参照)

糸始末

8 ソックスの作り方 19 と同様にします。

できあがり!

クロバー株式会社
〒537-0025 大阪市東成区中道3-15-5
「お客様係」TEL.(06)6978-2277

㊟ 本製品や使用説明書を無断で複製し配布することを禁じます。